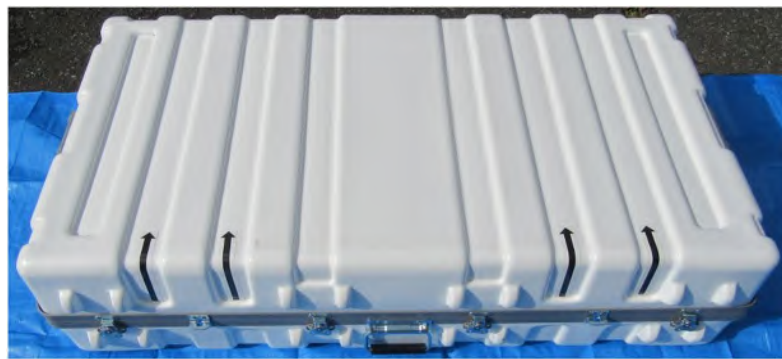


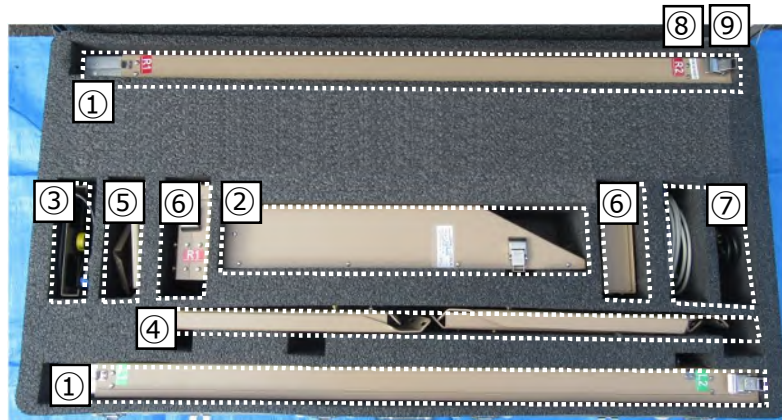
1.1.(1) 展開の手引き ~ゲートモニタ (MODEL52-1-1) ~

展開目安時間：約30分/2人作業
(ケース開封～運用)

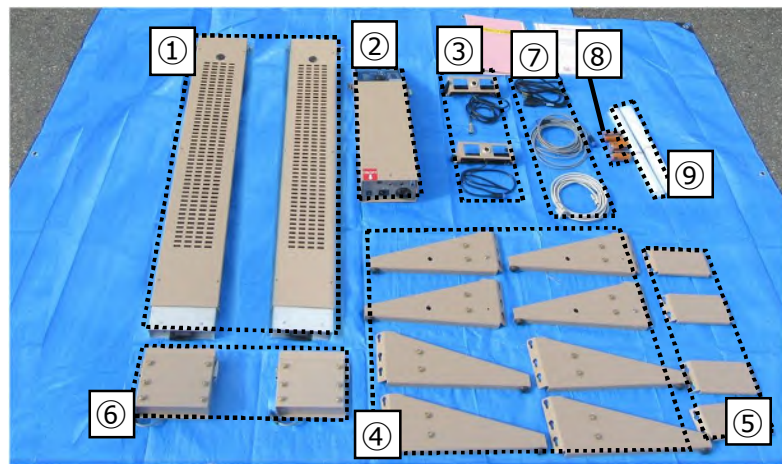
準備品



ケース外観



ケース内観



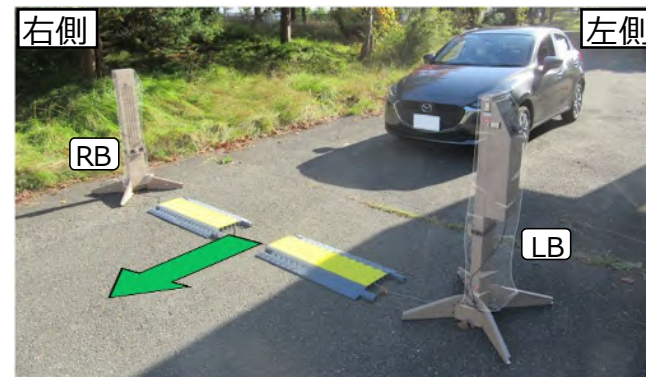
ケース内容物



その他

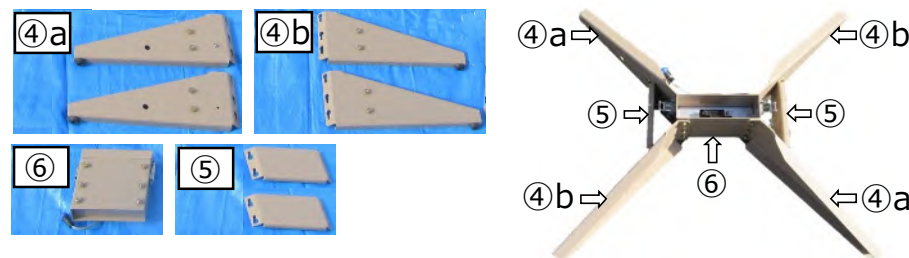
① 検出部	2本	⑦ ケーブル	3個
② 測定部	1台	⑧ 単一乾電池	3本
③ 赤外線センサ	2個	⑨ 防護カバー	20枚
④ 脚板	8枚	⑩ ケーブルプロテクタ	2個
⑤ 補強板	4枚	⑪ 巻尺	1個
⑥ 土台	2個	他 取扱説明書	

完成イメージ (検出部1段)



タイヤ部検査用 (高さ約1m)

1. 土台の組立てと設置



(1) ⑥土台の「P」ボタンを解除し蓋を取り外す。



(2) ⑥土台の接続部を上にし四方の留め具へ④脚板を取り付ける (留め具を脚板の鍵穴に差し込んだ後、小穴側へスライド)。



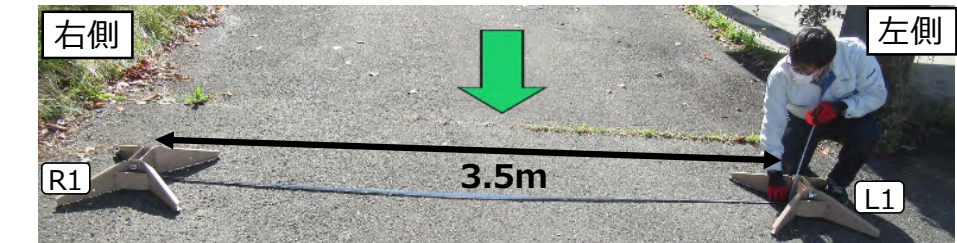
(3) ④脚板間の留め具へ⑤補強板を取り付ける。



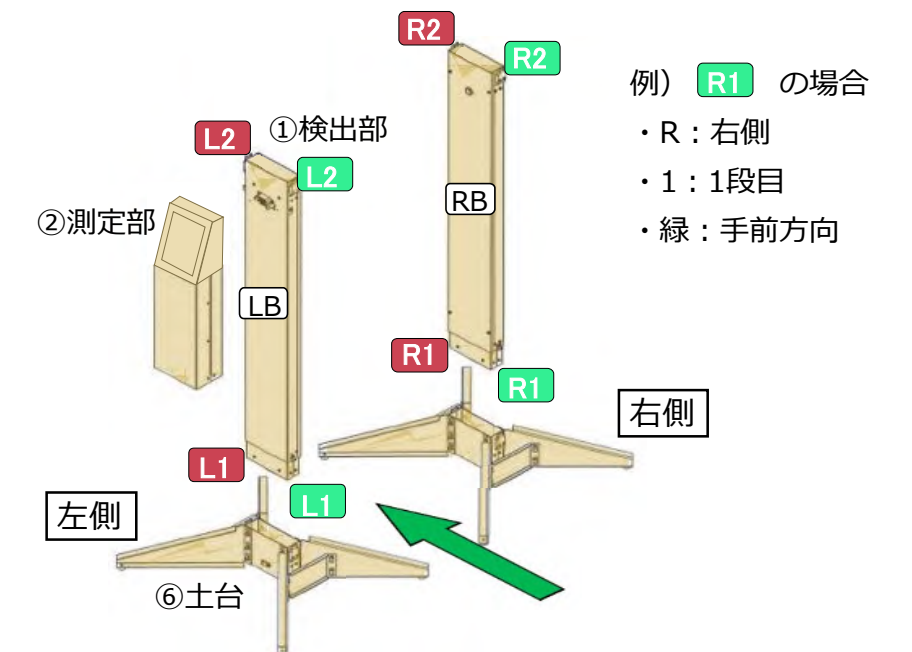
⑤補強板は④脚板と穴の方向が逆になっており、**方向を誤ると土台の強度が低下**するため注意する。

1. 土台の組立てと設置

(4) ⑪巻尺で設置予定場所の距離を測り、約**3.5m**の間隔で2式の⑥土台を左右 (右側: R1、左側: L1) に設置する。



2. 検出部の接続



⑥土台と①検出部の接続部 (差込み側、受け側) の目印を基に、位置を確認した上で**同じ目印同士を接続**する。

(1) 「1.(1)」で取り外した⑥土台の蓋を①検出部の上面接続部 (右側: R2、左側: L2) に取り付け、「P」ボタンを施錠する。



1.1.(1) 展開の手引き ~ゲートモニタ (MODEL52-1-1) ~

展開目安時間：約30分/2人作業
(ケース開封～運用)

2. 検出部の接続

(2) ⑥土台と①検出部の接続部の目印を基に、位置（向き）を確認した上で**同じ目印同士を接続**し、パナ錠を施錠する。



Point 検出部の網目が通行車両側（内面）か確認する。

(3) ②測定部を左側①検出部背面に接続し、パナ錠を施錠する。電源に乾電池を使用する場合は、測定部の取付け前に乾電池を挿入する。（「5. 電源の接続」参照）



3. 赤外線センサの接続

(1) ⑩巻尺で左右の①検出部の高さを測り、約50cmの高さで2個の③赤外線センサ同士が向かい合うよう、付属のマジックテープバンドを巻き付けて取り付ける。

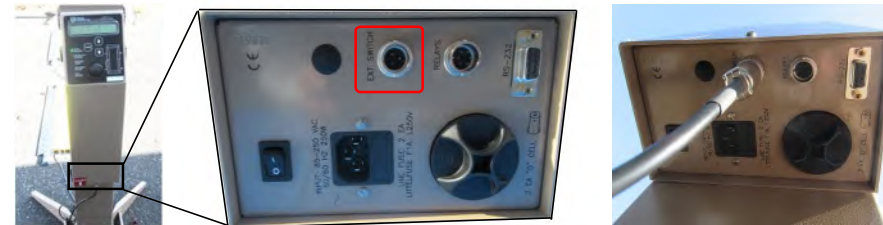
(右側：樹脂端子の赤外線センサ、左側：金属端子の赤外線センサ)



Point 赤外線センサは車両の進入を速やかに検知できる高さに設置する必要がある。

3. 赤外線センサの接続

(2) ③赤外線センサの金属端子を②測定部底面の「EXT SWITCH」端子に接続する（金属端子のピンが合うよう差し込み、時計回りに回す）。



(3) ③赤外線センサの樹脂端子を1段目①検出部側面の「R2」目印近くの端子に接続する（樹脂端子のピンが合うよう差し込み、時計回りに回す）。



(4) 樹脂端子の⑦ケーブル（灰色）を⑥土台間に敷設し、ケーブルと土台背面下部の樹脂端子同士を接続する。



4. ケーブルプロテクタの設置

(1) ⑥土台の間に⑩ケーブルプロテクタを設置し⑦ケーブル（灰色）を収納する。



5. 電源の準備

(1) 使用する電源に合わせて、次のとおり準備する。

①AC電源を使用する場合
コネクタ端子の⑦ケーブル（黒色）を②測定部底面「INPUT」とコネクタ（AC100V）へ接続する。



②乾電池を使用する場合

⑧単一乾電池を陽極（凸）が手前側となるよう②測定部底面の「3EA"D"CELL」へ挿入しスクリューキャップを締める。



Point 乾電池による稼働時間は約24時間が目安となるが、検査頻度、環境条件によって変化するため注意する。

6. 防護カバーの装着

(1) 機器は防滴構造ではないため、左右の①検出部及び②測定部に⑨防護カバーを被せて完全に覆い、防滴性を確保する。



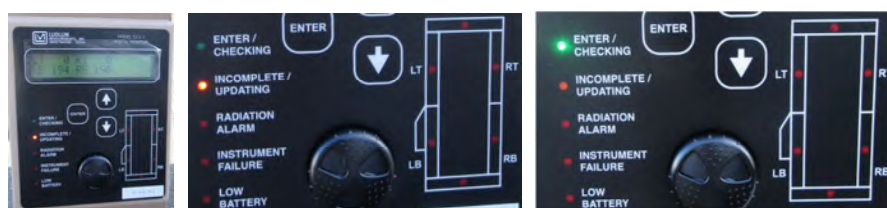
Point 雨天時に関わらず、汚染防止の観点から晴天時に防護カバーを装着することも可能。

7. 測定部の起動

(1) ②測定部底部の電源スイッチを「-」(ON)にする。



(2) 起動後「INCOMPLETE/UPDATING」橙ランプ点滅とピープ音出力されるため、「ENTER/CHECKING」が緑ランプ点灯に変わるまで待機(約2.5分)する。



Point 起動直後は、起動してから5分間の余熱時間を待つこと。

8. 使用前点検の実施

(1) 測定部を確認し、検出部間のデジタル表示値が同程度であることを確認する。



(2) 手で赤外線センサを遮ることで、車両通過時を模擬し、「ENTER/CHECKING」緑ランプ点滅と短いピープ音出力されることを確認する。

(3) 赤外線センサを遮ることを止め、車両通過後を模擬し、次のいずれかの出力になるか確認する。

① 警報設定値以下の場合「ENTER/CHECKING」緑ランプ点灯の出力。



② 警報設定値を超えた場合は「RADIATION ALARM」赤ランプ点灯、ピープ音、検知した検出器RB, LBに赤ランプ点灯の出力(約15秒間)。



Point ゲートモニタは、使用前に警報設定値を設定する必要がある。「運用の手引き」を参照。

(4) 結果出力後は「ENTER/CHECKING」緑ランプ点灯の出力に自動で戻ることを確認する。

正常に動作しない場合の対応

(1) 事象に応じて、以下の対応を試みる。

① 「Instrument failure」赤ランプが点灯している場合バックグラウンドの異常、検出部の故障及び赤外線センサが正常に認識されていない可能性がある。

- ・赤外線センサの高さと向きを確認する。
- ・機器及びケーブルの接続を確認する。
- ・ゲートモニタの設定値が正しいか確認する。

(2.2.(2)運用の手引きを参照)

② 「Low Battery」赤ランプが点灯している場合電池電圧が低くなっている可能性がある。AC電源に切換えて正常に動作するようであれば、乾電池を交換する。

(2) 上記事象に該当しない場合は、**検査責任者補佐員**に状況を伝達する。